

経営比較分析表／団体全体（令和5年度決算）

岐阜県

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	9,760	極小規模	1	3,193
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	66.5	13	5,388	非設置	

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 経常収支比率
100%を超えており、事業開始以降、黒字を確保しています。今後50年間の施設更新には多額な費用が見込まれるため、将来世代に過度な負担を強いることがないよう、今後も施設整備に必要な資金（内部留保金）を確保していきます。
- 累積欠損金比率
累積欠損は発生していません。
- 流動比率
100%を超えており、短期的な債務に対する支払能力は問題ありません。
- 企業債残高対給水収益比率
年々給水収益が増加しており、企業債の償還も進んでいるため、平均値と比較して5割程度となっています。
- 料金回収率
100%を超えており、給水に係る費用が給水収益で賄えています。
- 給水原価
平均値と比較して低い状況となっています。引き続き、維持管理費の削減等に努めていきます。
- 施設利用率
契約水量、実給水量が増加したことにより、施設利用率も増加したことから、平均値以上の施設利用率を達成しました。
- 契約率
年々上昇傾向にありましたが、当年度では大きく上昇したことから、平均値以上の契約率を達成しました。

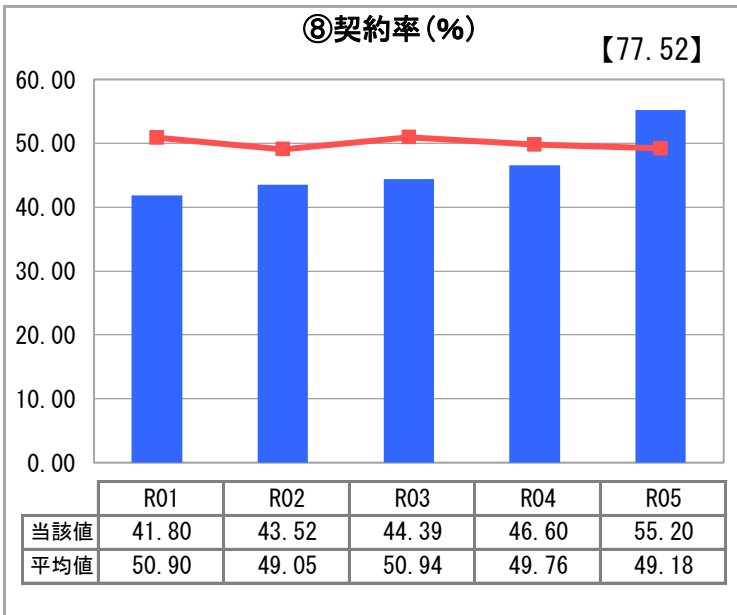
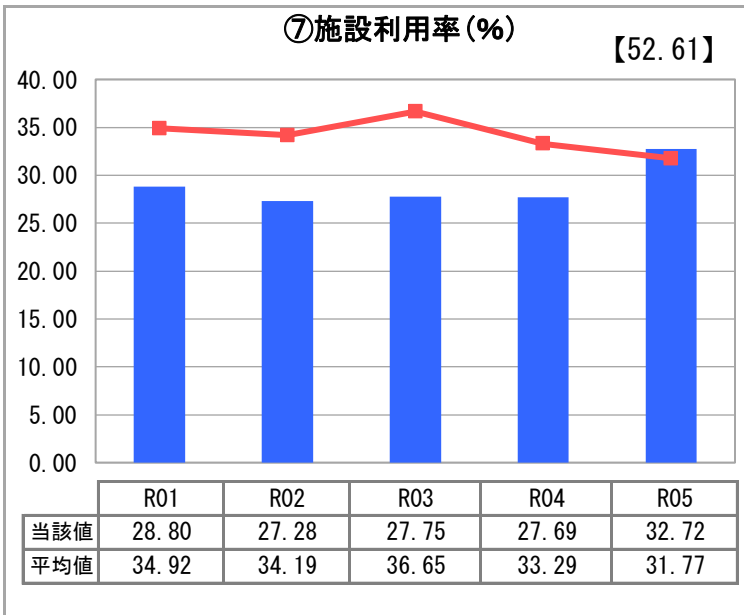
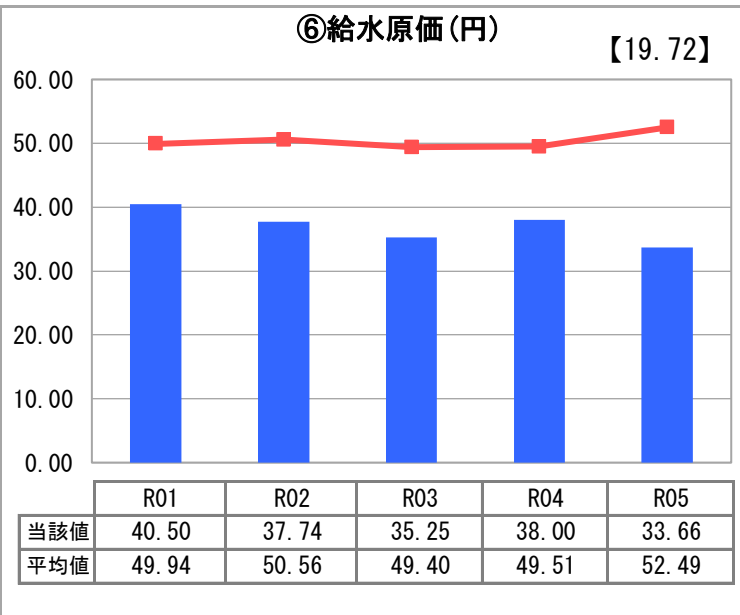
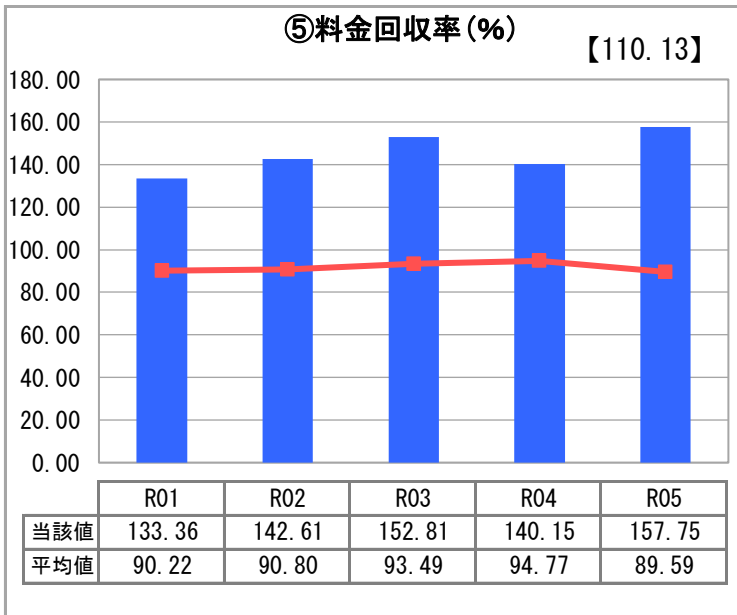
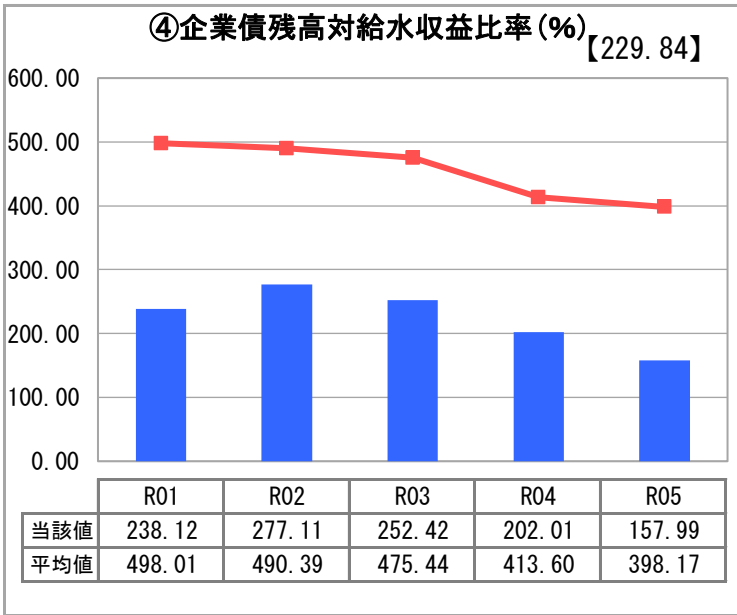
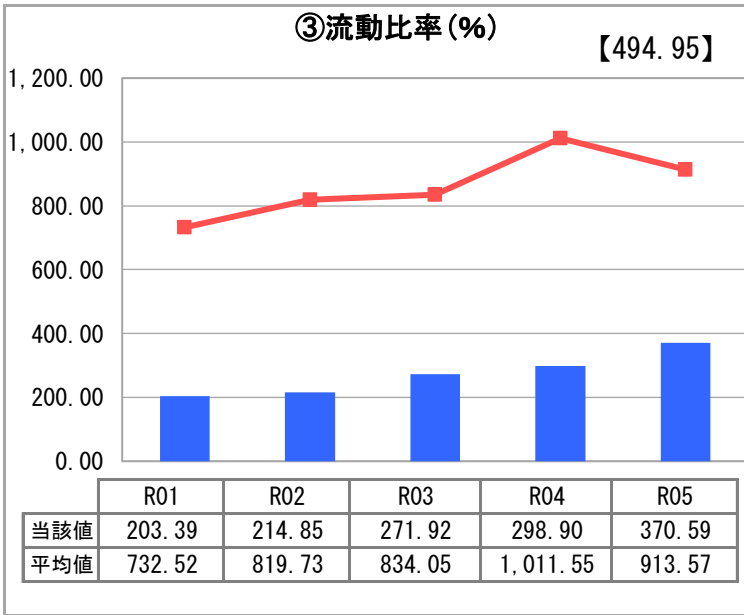
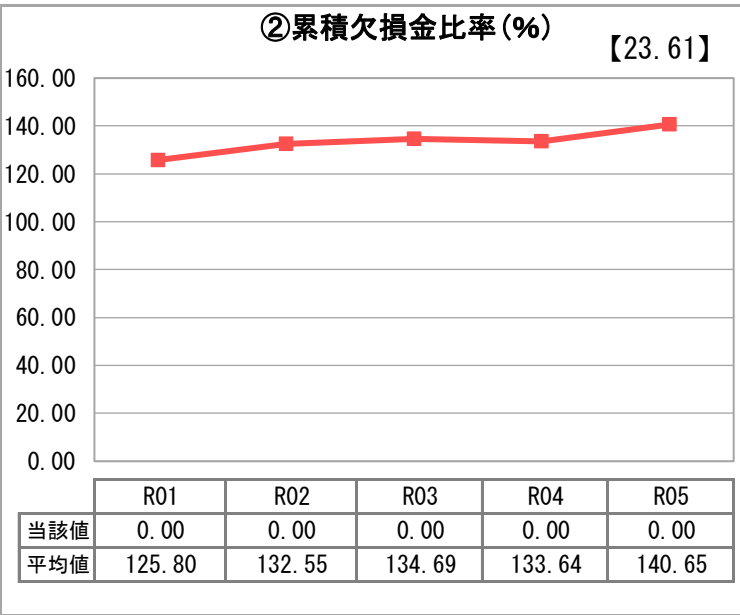
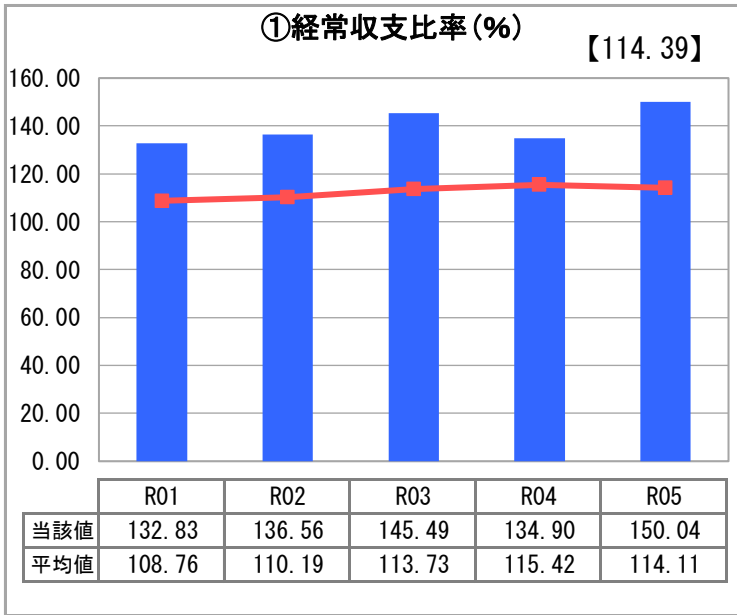
2. 老朽化の状況について

平成10年の供給開始から26年目であることから、管路は老朽化していません。

全体総括

- 可茂工業用水道事業は、供給開始から26年目であることから、当面は施設の老朽化に伴う大規模更新の予定がありません。また年々契約水量も増加しており、黒字経営を維持していることから、引き続き安定的な経営ができる見通しとなっています。
- 今後も安定的な事業継続を図るため「岐阜県可茂工業用水道事業経営戦略（令和2年3月公表）」をもとに、以下の取組みを推進しています。
- ・契約水量の拡大
 - ・経営基盤の強化（施設整備に必要な資金確保）
 - ・水需要に応じた施設の段階的整備

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

